

1・6 調査研究に対する外部評価

当所の調査研究に対して外部からの意見を聞き、県民ニーズなどに合致した効率的で効果的な研究業務の遂行と、その透明性の確保を目的に実施。

年月	調査研究課題	総合評価	コメント
22年11月	Vibrio vulnificus の発生動向と環境因子に関する研究	評価できる（成果評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・ Vibrio vulnificus の8年ほどやっているにもかかわらず、県民の認知度は低い。もっと県民への周知を図る必要がある。 ・ Vibrio vulnificus 感染症の発生数は少ないものの、全国的に見て本県に多く見られる感染症であり、今後もっと研究成果があがるよう頑張っ て欲しい。 ・ Vibrio vulnificus のデータを迅速に公表していける仕組みを作り、衛生行政に活かして欲しい。そのためにも、現在4～5日を要する検査結果の短縮のため、リアルタイムPCR装置を活用し、迅速に結果を出す必要がある。 ・ 有明海沿岸の各県が共同で調査することが必要ではないか。
22年11月	液体クロマトグラフ/タンデム型質量分析計（LC/MS/MS）を用いた蓄水産食品中の動物用医薬品迅速分析法に関する研究	非常に高く評価できる（成果評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・ この研究は分析法が確立され、完成度も高い。バリデーションがきちんと実施されており、信頼性も確保されている。 ・ 行政からの要望に基づいてスタートし、その期待に応えており、今後に応用できる研究である。 ・ 研究が完結しており、分析に長期間かかる公定法が少しでも簡便になっていくようこの研究を論文にまとめて、関係学会などで公表すべきである。 ・ 既に、県内の民間検査機関や他県でもこの研究成果が導入されており、技術開発への寄与度も高い。 ・ 昨年開発した農薬の迅速分析法と併せて、県民の食の安全・安心のニーズに応えている。
22年11月	農薬に起因する健康被害発生に対応した加工食品中農薬の迅速分析法に関する研究	高く評価できる（計画評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度に健康被害が発生しており、県民の関心が高いテーマであって、県民ニーズにも対応している。是非やってもらいたい研究計画である。 ・ 加工食品は、加工時の熱による農薬の分解が生じ、その分解物が毒性を示すなど、分析に当たっては難しい面があり、大変な仕事である。 ・ 分析に当たっては、GC/MSかLC/MS/MSの選択を見極めた方がよい。 ・ 計画に関する資料が少なく、評価を行う上で迷う点があったが、今後の研究成果に期待したい。

成果評価：調査研究の事業終了後に、研究目的の達成状況、行政施策等への寄与度及び県民ニーズへの対応等を評価

計画評価：計画段階において、研究の目的、研究の体制及び内容等を評価